

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

### 記

■ 実施日 2018年7月2日(月) ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	提出材料	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法
6573 0	メラノーマ PD-L1 タンパク(IHC)28-8 5D598-0000-070-666	未染標本 スライド	4枚	Z10 (t)	室温	5~10	2700 ※7	免疫組織化学 染色法 &D

※7: 病理判断料

#### ●メラノーマ PD-L1タンパク (IHC) 28-8の提出方法

- 1) 癌細胞の有無が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付をお願いいたします。(ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。)なお、諸事情により添付できない場合には、依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
- 2) 材料はメラノーマ(原発巣または転移巣)の未染標本スライド(ホルマリン固定パラフィンブロックから作製されたもの)となります。シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出下さい。
- 3) 組織は4~5μmの厚さに薄切し、フロスト端から15mm以上、スライドガラス端から15mm以上離してなるべく中央に貼り付けてください。
- 4) パラフィンブロックでご依頼の場合、未染色スライド作製のため所要日数が遅れますので、営業員へご連絡ください。

## ● メラノーマ PD-L1タンパク (IHC) 28-8

悪性黒色腫患者における免疫チェックポイント阻害剤ニボルマブとイピリムマブの併用療法の適切な投与を行うための補助に用いる検査です。

本来、身体に有害な病原体や癌などの異常細胞は、NK細胞やT細胞などの免疫細胞によって排除されています。しかし一部の癌細胞は自己防衛のためPD-L1という物質を発現し、T細胞が持つ免疫抑制もしくは停止スイッチのPD-1に結合し、免疫機能を阻害しています。そのため、PD-1とPD-L1の結合を阻害して、T細胞の細胞障害活性を回復させる免疫チェックポイント阻害剤が注目されています。

本項目は、悪性黒色腫（メラノーマ）患者における免疫チェックポイント阻害剤の一種である「ニボルマブ（商品名：オプジーボ<sup>®</sup>）」と「イピリムマブ（商品名：ヤーボイ<sup>®</sup>）」の併用療法の適切な投与を行うための補助に用いる検査です。

### ▼疾患との関連

悪性黒色腫（メラノーマ）

### ▼関連する主な検査項目

BRAF V600変異解析〔PCR〕

### ▼検査要項

検査項目名	メラノーマ PD-L1タンパク (IHC) 28-8
項目コードNo.	6573 0
提出材料	未染標本スライド
検体量	4枚
容器	Z10 (t) オブジェクトケース
保存方法	室温保存してください
所要日数	5~10 日
検査方法	免疫組織化学染色法
検査実施料	2700点 (「N005-3」PD-L1タンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製)
判断料	150点(病理判断料)
備考	&D

### ●メラノーマ PD-L1タンパク (IHC) 28-8の提出方法

- 1) 癌細胞の有無が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付をお願いいたします。(ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。)なお、諸事情により添付できない場合には、依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
- 2) 材料はメラノーマ(原発巣または転移巣)の未染標本スライド(ホルマリン固定パラフィンブロックから作製されたもの)となります。シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出下さい。
- 3) 組織は4~5μmの厚さに薄切し、フロスト端から15mm以上、スライドガラス端から15mm以上離してなるべく中央に貼り付けてください。
- 4) パラフィンブロックでご依頼の場合、未染色スライド作製のため所要日数が遅れますので、営業員へご連絡ください。

### ●参考文献

名倉 宏, 他: 渡辺・中根 酵素抗体法 改訂四版(学際企画): 147~150, 2002. (検査方法参考文献)  
Phillips T, et al: Appl Immunohistochem Mol Morphol 26(1): 6~12, 2018. (臨床的意義参考文献)